

三年学年だより

No. 6

9 月号

令和6年8月 発行

304HR

思い出話

2学期が始まります。今年はどんな夏を過ごしましたか。納得いく過ごし方ができた人、少し後悔している人、いろいろでしょうか。

ところで、将来就きたい職業は決まっていますか。一生の仕事を決めるのは、勇気のいる作業だと思います。決まっている人でも、これで本当にいいのかな、自分にできるのかなと思っている人は多いのではないのでしょうか。

私は、教育学部卒業ですが、進学した時点では教員になる気持ちはあまりありませんでした。他の仕事に比べると興味があり、何か資格（免許）は取っておきたいという気持ちの一方で、まだ他の選択肢を残しておきたかったというのが正直な気持ちでした。そこで、教員免許は取れるけれども、専門ではない学科に進学しました。

そんな気持ちで進学した私がなぜ、教員をしているかということ、家庭教師のアルバイトがきっかけでした。気軽な気持ちで始めたアルバイトでしたが、わかった瞬間の表情を見ることや子供と話すことを楽しく感じている自分に気が付き、「教員もいいかも」と考えるようになりました。でも、これだけでは教員になる決心はつきませんでした。教育実習に行ったこと、大学でいろいろな考えを持った人たちと様々な分野の勉強をしたこと、友人たちと遊んだり話したりしたことなど、数え切れない体験の中で感じたり考えたりしたことが、私の気持ちを後押ししてくれたように思います。そして、何より友人たちが真剣に就活する姿を見たことが一番大きな刺激を与えてくれました。「卒業したら社会人」という事実に向き合う友人たちの姿を見て、この当たり前の事実から目をそらしてはいけないと覚悟を決めました。

進路決定の重要な時期を迎えている人が多いと思います。辛いと感じることも多いと思いますが、自分の人生を自分で決められる幸せもかみしめながら、しっかり悩んで決定してください。そして、目標が決まったら努力あるのみ。

(304HR担任)

思い出話その2

私は水産学部を卒業し、大学院（水産科学研究科）へ進学しましたが、理系なので同期の大半も同じような進路選択でした。この時点では教員になる気持ちはほぼなく、研究ばかりの日々でした。日々の学びのなかで誰しも疑問のタネを持っていると思います。そのタネから研究は始まります。実は研究はとても身近なことなのです。そして、疑問が解けると視野が広がり、世界も広がります。ワクワクします。研究とは、なんて魅力的なのでしょう。そんな研究の楽しさを伝えたいと思い「教員もいいかも」と考えるようになりました。進路決定について、まだ決定打に欠けていたとしても、経験が視野や世界を広げ、可能性を広げてくれると思います。何事も臆せずにとんどん経験していきましょう。みなさんの前には無限の可能性が広がっています。しっかり悩んで、目標が決まったら努力あるのみ。

(304HR副担任)